



## 生徒会役員誕生！河東中に新しい風を吹かせます ～ 新しい時代をつくる生徒会 挑戦をものにする生徒会 ～

11月22日(火)の生徒会役員改選により、河東中第37代生徒会役員が誕生しました。今回の改選により生徒会長・副会長・書記の3役が決まり新執行部として活動します。7名の役員にこれからの河東中生徒会をどうか取り扱うのかを語っていただきました。新役員の決意と抱負を2回に分けて掲載します。今回は、生徒会長と副会長の3名の決意表明です。次号にて書記の4名の決意を載せます。新専門委員長を含め、12月23日に任命式を行います。



### 【 生徒会長 貞光 歌さん 】

私は新しい時代をつくる生徒会にしたいと思います。このせっかくそろったもちまへの個性を生かしてみんなでアイデアを出し合い、今までやったことがないことにチャレンジしたいです。そして、全校生徒で新しい伝統をつくりたいです。また、「挑戦をものにする」これがこれから一年間の目標です。いろんなことに挑戦して、そのままにするのではなく、しっかり自分のものにして身に付けるまでしたいと思っています。その経験や知識をいろんな場面で活用できるようになりたいです。まだまだ不安なことはいっぱいですが、みんなで協力して全力で頑張ります。



### 【 副会長 久野 由翔さん 】

こんにちは！新生徒会副会長になりました久野由翔です。まずはじめに私は何度もお話した通り、「責任ある行動」を胸に生徒会の仕事を行っていきたく思います。その上で、公約にも掲げたような「生徒会長を支える」「登下校の意識を変える」といった目標を+αで達成していきたいです。そのために、まずはこの一か月間、自分磨きと現生徒会役員の方のご活躍を目に焼き付けています。最後に、今回の選挙を運営してくださった方、応援してくださった方、誠にありがとうございました。この御恩をしっかり返せるように頑張ります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



### 【 副会長 日高 帆乃美さん 】

こんにちは。生徒会副会長になりました、日高帆乃美です。私の目標は、生徒全員が「自分らしく」過ごせる河東中学校をつくることです。この目標を実現させるために、まずは周りを見て気づく力をつけます。そして、お互いを認め合う意識を少しずつ広めていきます。私は、クラス・学年を超え、河東中の生徒全員でより良い生徒会をつくっていきたく思います。一年後、みなさんが河東中で良かったと思える学校を目指し、生徒会役員全員で全力で活動します。よろしくお願いいたします。



## 第4回かとう学園運営協議会を開催しました



熟議の内容を報告する吉原PTA会長

11月29日(火)河東小学校音楽室にて、第4回かとう学園運営協議会を開催しました。今回の議事の主な内容は、総合的な学習の時間に学校と地域が連携した学習をどう展開するかということでした。ふるさと学習や地域での活動・地域貢献などについて、保護者・地域・学校それぞれの立場を交えて小グループで意見が交わされ熟議が行われました。その中で、かとう学園に人材バンクの設立の必要性や小中学校9年間の各学年における地域とのかかわり方や地域と協働した学習の在り方について論議されました。

## 「一心不乱に努力すると、智恵の蔵のとびらが開かれる」

### ～ 稲盛和夫さんが残した言葉 ～

毎年、11月になると日本発のノーベル賞ともいえるべき「京都賞」が発表されます。科学や技術、思想や芸術の分野で世のため人のために貢献した人を37年にわたって顕彰してきました。これは、今年亡くなられた京都セラミックスをつくられた稲盛和夫さんが創設したものです。受賞者には1億円が進呈されます。日本人では、これまでIPS細胞研究の山中伸弥さんやデザイナーの三宅一生さんなどが受賞されています。稲盛さんは、かつてインタビューで京都賞の受賞者には共通する点があると興味深い話をされています。その語られた内容を紹介します。



「皆さん一様におっしゃるのは、画期的な発明や発見にいたるプロセスにおいて、人知れず努力を重ねているさなか、あるいはふと休息を取っているときや寝ている夢の中で、まるで神様の啓示のごとく、創造的なひらめきを与えられる瞬間があるということです。

ひたむきに自分の専門分野の研究に打ち込んでおられる方というのは、時と場合によっては、暗中模索だったり、行く先に迷われたりするかもしれません。しかし、京都賞を受賞される皆さんはそういうことがあっても、まっしぐらに進んでおられる。一所懸命研究をやっておられる。

この宇宙には智恵の蔵(倉庫)、真理の蔵というものがあり、純粋な情熱を傾けて一心不乱に取り組むその真摯な努力に対して、神様は智恵の蔵のとびらを開き、一筋の光明がさすように、困難や障害を克服するヒントを授けてくれるのではないかと思います。」

よくスポーツの世界で、プレー中、集中が極限まで達するとゾーンに入ることがあると言います。創造の世界でもそれに似た現象があると稲盛さんは語ります。皆さんも、夜数学の問題を考え続け解決しないまま寝た後、朝起きてふと解決方法が思いついたり、考え抜いていたことが歩いているときふと良いアイデアが湧いてきたりする瞬間を経験したことがあるでしょう。河東中生には、何か一つのテーマをとことんやり抜き、努力を重ねることで智恵の蔵のとびらが開かれる経験をたくさん味わってほしいと思います。